令和７年度 第１回 松野町まちづくり委員会会議録

日時：令和７年８月26日（火）13:30～15:30
場所：松野町役場　庁舎２階　議場兼大会議室

【委員（出席者）】

氏　　名	出欠	氏　　名	出欠	氏　　名	出欠
酒　井　博　司	出	長　谷　信　昭	出	井　上　重　人	出
岡　村　　勝	出	金　谷　恒　夫	出	三　好　まり子	出
中　脇　　優	出	豊　永　純　一	欠	毛　利　伸　彦	欠
山　木　幸　三	出	山　下　武　久	出	山　下　智　恵	出
須　田　正　文	欠	中　森　京　司	出	－	－
村　田　和　宏	欠	河　野　祐　一	欠	－	－
森　　英　雄	出	谷　　清	出	－	－

～　次　第　～

１　開　会

２　あいさつ

３　協議事項
　第２次森の国松野町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

４　自由討議

令和７年度第１回松野町まちづくり委員会の開催結果について

日時：令和７年８月 26 日（水）13:30～15:30
場所：松野町役場　庁舎２階　議場兼大会議室
参加委員：酒井委員、岡村委員、中脇委員、山木委員、森委員、長谷委員、金谷委員、
山下（武）委員、中森委員、谷委員、井上委員、三好委員、山下（智）委員
町参加者：坂本町長
小西課長（総務課）、谷口課長（防災安全課）、中井課長（農林振興課）、
井上課長（建設環境課）、芝課長（町民課）、矢野課長補佐（保健福祉課）、
戎課長（教育課）
友岡課長、土居課長補佐、細田主事（ふるさと創生課）

内容：概ね次のとおり。
１．開会あいさつ（坂本町長）
２．協議事項
(1) 第２次森の国松野町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について
　ふるさと創生課が資料に基づき総評を行った後、関係各課から実施事業について説明を行った。
３．自由討議

発言者	内容
	（タクシー業者に対する助成について）
委員	近隣の自治体でも、近年、タクシー業者が廃業し、タクシーを手配しづらくなっていると聞く。町内のタクシー業者がなくなると、大変移動に困る。タクシー業者への助成は検討していないのか。
事務局	10月からデマンド交通の実証運行を開始する。デマンド交通はタクシーとバスの中間といった交通形態である。デマンド交通とタクシーの棲み分けをしつつ、地域公共交通の利便性向上を目指している。現段階ではタクシー業者への直接支援は検討していないが、町としてもタクシー業者の重要性は承知している。
	（インフラ整備について）
委員	橋梁・道路等のインフラ整備は県や国を頼っていても間に合わない。草刈りなどの管理は地域住民ができるような流れを作りたい。
事務局	行政も予算が限られており、全ての整備には手が回らないのが現状である。県の事業であるが、道路は愛ロードサポーター制度、河川は愛リバーサポーター制度によって、地域住民による美化活動も実施されている。
委員	歩いていると整備されていない歩道を見かけることがある。子どもや高齢者が通る場合、危険性が高いため、車道だけでなく、歩道の整備もお願いしたい。
事務局	直営班でも日々点検しているが、気づかない場所もある。危険箇所があ

	れば、町へ連絡いただきたい。
	（ACPについて）
委員	鬼北町で開催されているACP研修会に参加している。松野町でも取り組んでもらえるといい。
事務局	鬼北町ほど積極的には実施できていないが、地域包括支援センターを中心に開催しており、社会福祉協議会、介護事業者、障がい福祉サービス事業者等にも参加いただいている。また、吉野生公民館で定期的に開催している地域サロンでは、ACPに実践レベルで取り組んでいる。引き続きこのような機会を設け、また、さらに広く町民へ展開していけるよう取り組んでまいりたい。
	（空き家の活用について）
委員	町内の空き家が増えている。空き家を利用した事業や事業者の助成を検討し、松丸街道などの活性化につなげてほしい
事務局	空き家を利用した事業のための支援についても需要を認識しているところ。住宅整備だけでなく、事業活用という面での支援制度も検討してまいりたい。
	（地域おこし協力隊について）
委員	資料によると、地域おこし協力隊の受け入れ数は近年停滞しているようである。ぜひ地域のためにもそのような方に活躍していただきたい。
事務局	増減の推移については分析できていないところ。地域おこし協力隊の受け入れを開始してから10年を超え、受け入れ体制等を再検討する時期となっている。過去の実績や他自治体の事例等を踏まえて、検討を進めてまいりたい。
	（伝統芸能について）
委員	松野の秋祭りや五つ鹿踊りが衰退している。伝統芸能の復活に関して、知恵を絞って取り組んでもらいたい。
事務局	現状なかなか再開の見込みは立っていないところ。まずは、現存する記録については確実に残していく、そして伝統芸能の意義などを子どもたちへ伝える教育活動を進めながら、復活のための施策を検討してまいりたい。
	（森の国応援団について）
委員	森の国まつの応援団の会員数が減少している。関係人口の増加は重要であるため、応援団との取り組みを強化していただきたい。
事務局	森の国応援団の会員数は高齢化に伴い減少傾向である。直近では、関東支部で新たな取組が始まり、盛り上がりを見せている。松野町からも情報発信等をしっかり行い、つながりを強化してまいりたい。
	（万年荘について）

委員	万年荘の利用者数が減少している。何かしらの工夫や対策に取り組んでいただきたい。
事務局	昨年度は万年荘を改修したため、利用者数は大きく減少している。整備した万年荘を軸に滑床をPRしていけるよう、各方面と連携しつつ取り組んでまいりたい。
	（企業誘致について）
委員	企業誘致促進事業は現状どのような状況か。
事務局	現状、相談を受けている企業はない。誘致した企業との連携等により、様々な分野で波及効果を狙っていきたい。
委員	誘致企業の商品が広く住民には浸透していないように感じる。今年度は町政70周年の森の国産業祭も開催されるため、そういった場で企業紹介等はできないか。そのような地道な周知活動により、ゆくゆくは地元就職にもつながるのではないかと感じる。
事務局	商品は工場に行けば購入できるが、浸透していないところもあるため、町としてもPRの機会を設けていく必要があると感じているところ。森の国産業祭での紹介については、開催内容等を踏まえ、企業とも相談しつつ、検討していきたい。
	（鰻の食文化承継について）
委員	松野町といえば鰻。しかし、町内に天然鰻を提供できるお店がない。町外から人を呼ぶためにも食べ物は大きな鍵となる。色々な形で提供の可能性を模索していただきたい。
事務局	天然鰻の提供のための人材、場所が整っていない。町としてどのような形で支援できるか検討しているが、具体的な取組は進められていない。道の駅での提供や養殖鰻の提供などを含め、各方面と協議してまいりたい。
	（情報発信について）
委員	町のイベントの告知が遅い気がする。早い段階で告知するように努めていただきたい。
事務局	町の公式LINEを創設した。このようなコンテンツも活用しつつ、しっかり情報発信を行ってまいりたい。
	（資料について）
委員	KGI、KPI自体の説明、また、KGI等については近隣市町の実績値も掲載されていると比較ができ、分かりやすいと感じる。
事務局	今後の資料作成に当たって検討させていただく。